

「近道が良いとは限らない。」 出エジプト記13章17節～14章4節

料理にしても仕事にしても素早くすることが褒められる時代です。余った時間に、また仕事をするのでしようか。或は、自分自身を楽しませる時間を確保するのでしょうか。

長年生きて来て気が付くことは、丁寧に生きないとそれなりの幸せや繁栄は得られないということです。早く有能に仕事をしてきても、健康管理を怠ると、60歳を越えた頃から、身体に支障が出てきます。楽しく過ごしてきても、金銭管理を怠ると経済的に苦境に陥ります。ところが、多くの人が、それを自分の管理能力の結果とは捉えずに、運命的な宿命のように捉えるのが不思議です。

それは育つ時に、その分野の知識、教養、努力を教えられなかったこともあるようです。或は、そういうことに関心がない個性かもしれませう。人間の幸せという基準は多様なので、社会的にはどのように生きようかと、その人の勝手、ということになるのでしよう。

しかし、聖書的に捉えようと、預けられた人生と賜物（能力）を無駄にしたというところで、「この役に立たないしもべは外の暗闇に放り出せ。そこで泣いて歯ぎしりするのだ。」（マタイ25・30）ということになりまます。つまり、人生を努力しないで生きるということは、無神論的な思考であつて、神と神の裁きをなおざりにしたものと成るのです。

それでは、健康を害したり、貧乏になつた者は、神の祝福を失うのでしょうか。そうではありません。そこで、神の前に自己中心な生き方をしていたことを悔い改め、自らの罪を認めて生きるならば、そこから新しい人生が始まるのです。

クリスチャンになるといふのは、殆ど全ての人が、そのような道筋で悔い改め、信仰に導かれているのです。つまり、人は思い通りに生きたいのですが、そうは行かないようになっていて、神を求めるか、排他的に自分勝手に生きるかで、神の裁きに会うのです。子供を気ままに育ててしまふ親は、滅びの教育をしているのです。それでも、子ども自身が悔い改めるならば幸いです。

「神は彼らを、近道であつても、ペリシテ人の地への道には導かれなかつた。」（二）。それは、「民が戦いを見て心変わりし、エジプトに引き返すといけない。」からです。つまり、荒野であれば、逃げようがなく、神に従うしかありません。父なる神は、父として、長引いても、嫌がられ、怖がられても、私たちを正しい道に導こうとされるのです。

最近の父親は、子どもに嫌がられることを恐れ、或は躰けるといふことがわからず、放任することが多いようです。躰けられないで育つと、社会的マナーや配慮、そして従うということに身に付けずに、組織や人間関係から疎外されてしまいます。

神が導いた道は、通常の道とは全く違つており、「フアラオはイスラエルの子らについて、『彼らはあの地で迷つている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった』」（14・6）と判断されるような、前が海の逃げようがない所でした。神を信じるしかない場所なのです。

ところが、彼らは、「昼は、途上の彼らを導くため雲の柱の中に、また夜は、彼らを照らすため火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。」（13・21）とあるように、いつも導かれ守られていたのです。現代で言えば、聖霊なる神が「あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。」（ヨハネ16・13）と同じことです。

父なる神は、私たちが「心変わり」（二）しないように、「神は必ずあなたがたを顧みてくださる」（16）ことを信じ切るように、「栄光を現わす。」（14・4）ように、エジプトでさえ「わたしが主であることを知る。」（七）ように、私たちが試練の道に導くのです。

信仰体験というのは、そういうものです。そして、信仰者ならば誰にも、そのような神の導き、試み、試練はあるのです。ところが、多くの信仰者がそれを厭うのです。楽な道、近道を求めるのです。そして「心変わり」してしまい、「神は必ずあなたがたを顧みてくださる」ことを信じ切れず、「栄光を現わす。」ことがなく、自らも周囲の人も「わたしが主であることを知る。」ことがない人生を歩んでしまうのです。

神はなぜ、試練を与えるのでしょうか。それは、私たちを強くするために他なりません。人生は誤魔化しようもなく、逃げようもありません。甘い親ならば、言葉巧みに自分の思い通りに動かすこともできません。しかし、そのように暮らしていたら、必ずうまく行かなくなるのです。冒頭の言葉どおりです。

私は命がけで子育てをしてきたつもりです。子どもを守るため、危ない人々の所にも乗り込みました。クリニックの倒産も覚悟しました。子どもたちからは嫌われたことも多くあります。人生を知らず、楽しんで生きたいと思う子どもに、そんな甘い考えは許しませんでした。努力をしなければ間違いなく不幸になると躰けました。そして、身をもって教えました。だから、神が近道をさせないことはよくわかります。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

出エジプト 13:17 さて、ファラオがこの民を去らせたとき、神は彼らを、近道であっても、ペリシテ人の地への道には導かれなかった。神はこう考えられた。「民が戦いを見て心変わりし、エジプトに引き返すといけない。」

13:18 それで神はこの民を、葦の海に向かう荒野の道に回らせた。イスラエルの子らは隊列を組んでエジプトの地から上った。

13:19 モーセはヨセフの遺骸を携えていた。それはヨセフが、「神は必ずあなたがたを顧みてくださる。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上らなければならない」と言って、イスラエルの子らに堅く誓わせていたからである。

13:20 彼らはスコテを旅立ち、荒野の端にあるエタムで宿営した。

13:21 【主】は、昼は、途上の彼らを導くため雲の柱の中に、また夜は、彼らを照らすため火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。

13:22 昼はこの雲の柱が、夜はこの火の柱が、民の前から離れることはなかった。

14:1 【主】はモーセに告げられた。

14:2 「イスラエルの子らに言え。引き返して、ミグドルと海の間にあるピ・ハヒロテに面したバアル・ツェフォンの手前で宿営せよ。あなたがたは、それに向かって海辺に宿営しなければならない。」

14:3 ファラオはイスラエルの子らについて、『彼らはあの地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった』と言う。

14:4 わたしはファラオの心を頑なにするので、ファラオは彼らの後を追う。しかし、わたしはファラオとその全軍勢によって栄光を現す。こうしてエジプトは、わたしが【主】であることを知る。」イスラエルの子らはそのとおりにした。

Exo 13:17 Then it came to pass, when Pharaoh had let the people go, that God did not lead them by way of the land of the Philistines, although that was near; for God said, "Lest perhaps the people change their minds when they see war, and return to Egypt."

13:18 So God led the people around by way of the wilderness of the Red Sea. And the children of Israel went up in orderly ranks out of the land of Egypt.

13:19 And Moses took the bones of Joseph with him, for he had placed the children of Israel under solemn oath, saying, "God will surely visit you, and you shall carry up my bones from here with you."

13:20 So they took their journey from Succoth and camped in Etham at the edge of the wilderness.

13:21 And the Lord went before them by day in a pillar of cloud to lead the way, and by night in a pillar of fire to give them light, so as to go by day and night.

13:22 He did not take away the pillar of cloud by day or the pillar of fire by night from before the people.

14:1 Now the Lord spoke to Moses, saying:

14:2 "Speak to the children of Israel, that they turn and camp before Pi Hahiroth, between Migdol and the sea, opposite Baal Zephon; you shall camp before it by the sea.

14:3 "For Pharaoh will say of the children of Israel, 'They are bewildered by the land; the wilderness has closed them in.'

14:4 "Then I will harden Pharaoh's heart, so that he will pursue them; and I will gain honor over Pharaoh and over all his army, that the Egyptians may know that I am the Lord." And they did so.